



どうなる介護どうする地域2026

NPO地域共生を支える医療介護市民全国ネットワーク

- 2026年9月5日
- 川畑よしとも
- 中央区議会議員
- 一般財団法人日本車椅子シーティング財団事務局





自己紹介

- ・1963年生まれ 62歳
- ・1985年から自立生活をする障害者の介助に入る(47歳まで月1回泊まり介助)
- ・障害者介助の中で障害者が最も困っていたことを仕事にしよう→車椅子の修理に来てくれない
- ・大学4年生でギランバレー症候群を発症。自身も車椅子生活へ
- ・1995年有限会社パムック創業 車椅子の製造・販売・修理・レンタル4拠点、デイサービス3店舗
- ・2019年 M&Aにより上場企業に会社売却
- ・2020年 理想の企業経営を目指して新会社PS-PRODUCTS設立(現在)
- ・2023年 地域から政治を変える取り組みとして区議会議員選挙に立候補・当選



介護保険の現状は

- ・危機的ではあるがなんとか持ち堪えている
- ・地域の繋がりが消失した現代(特に都市部)では、介護保険は最後の砦
- ・あらゆる産業、特に1次2次産業や介護・看護・物流などいわゆるエッセンシャルワークの人員不足
- ・人口減少(毎年30万人以上減少する社会、中核市が毎年消滅している感じ)
- ・2016年ごろから求人が極端に困難に(営業職・介護職・看護師など)
- ・高齢化率は上昇、介護者は減少、まわるわけない。
- ・労働市場への外国人労働者の例外的組み込み(移民受け入れしないので不利益は外国人労働者に)
- ・



今やるべきことは何？

- ・介護の人手不足は今後10年以上解消できない(介護報酬が大幅に引き上げられたらもしかしたら・・・)
- ・人の手をかけない介護を考えるべき時なのではないか
- ・もっと用具(道具)を活用すべき
- ・特にリフトとシーティングが海外に比較して極端に利用が少ない
- ・なぜ日本で寝かせきりが多いのか→移乗するマンパワーの不足(介護職員の腰痛保有率60～80%)
- ・リフトの普及を促進して移乗ができる環境整備をすれば、寝たきりゼロは実現できる
- ・わかっているが普及が進まない・・・(わたしたち普及側の問題と制度の問題と職員や利用者のい)
- ・座位姿勢が悪いために食事介助が必要な方のなんと多いことか・・・
- ・座位姿勢の改善(シーティング実施)で自分でできることが増え、自立・自尊・自信が生まれる(人権を守る)
- ・



シーティングを取り組んだ場合とそうでない場合

効果が明らかなのに取り組まない、改善が十分見込めるのに取り組まない、食事が自立できるのに取り組まない
なぜなのでしょう？→残念ながら人権意識の希薄さがそうさせているのではないかな？



食事介助が不要となります。

背角 95°



背角 97°



背角 100°



背角 102°





福祉用具を活用して介護保険をより良くする

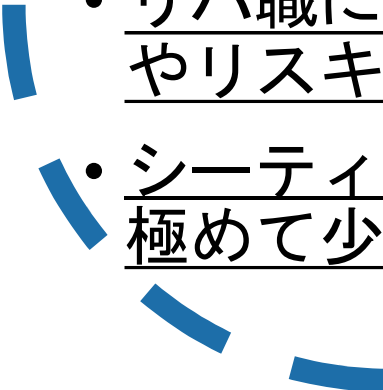
- ・現在は、おまけ的に考えられている場合が多い福祉用具にしっかりと着目すべき
- ・介護報酬の引き上げが必須だが、現在の財源構造では困難であり、公費負担75%への引き上げを求めるべき
- ・高額療養費制度と同様の高額介護費支援制度を創設すべき
- ・シーティングの普及に向けて全国で在宅・施設とも取り組めるよう制度化が必要
- ・

- ・ 仕事や生活には適切な姿勢やポジションが必要である（シーティングの重要性）
- ・ 障害者や要介護高齢者の日常生活においてシーティングが浸透していない現状がある
- ・ シーティングが普及すればADL向上・自立促進・介護人材不足解消の切り札となり得る

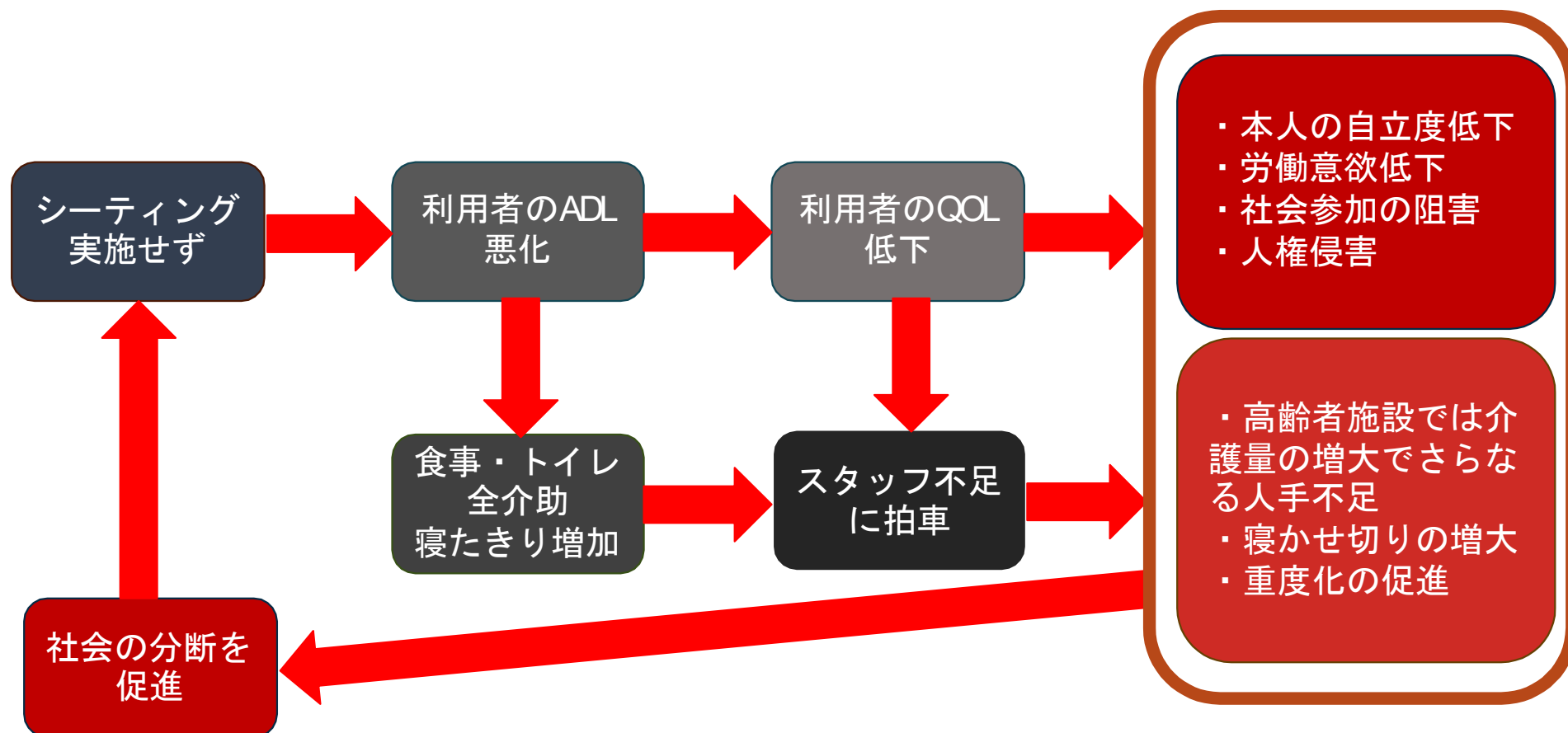
課題



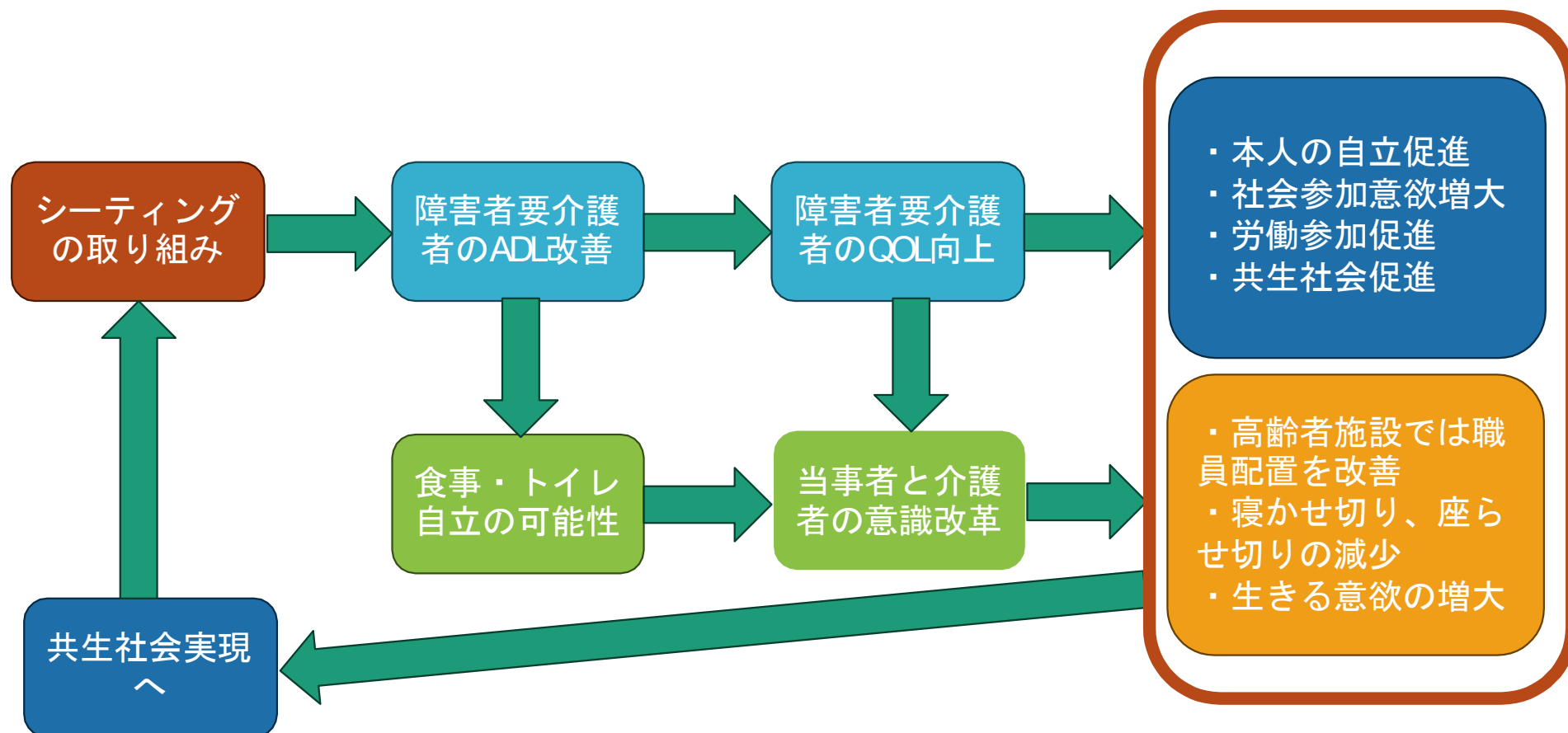
シーティング普及を阻む現実の壁

- 障害者、高齢者施策においてシーティング自体が認識されていない。シーティングを実施するメリットが不明確。
 - 看護・介護の教育課程にシーティング科目がないため、シーティングの重要性に気づいた人が行なっている。つまり気づいた人（施設）しか取り組まない。インセンティブがない。
 - リハ職においてはシーティングの概要は学習するが、卒後教育やリスクリングが不足している。
 - シーティングの重要性について、社会的認識が深まらないため極めて少数者の少数者による特殊分野にとどまっている
- 

シーティングを実施しない悪循環（図解）

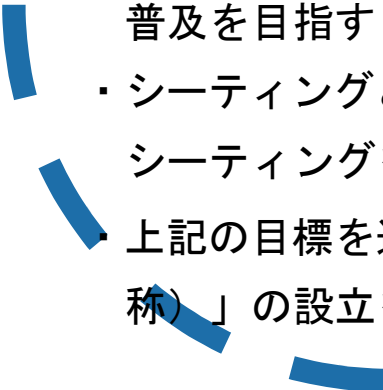


シーティング実施の好循環（図解）

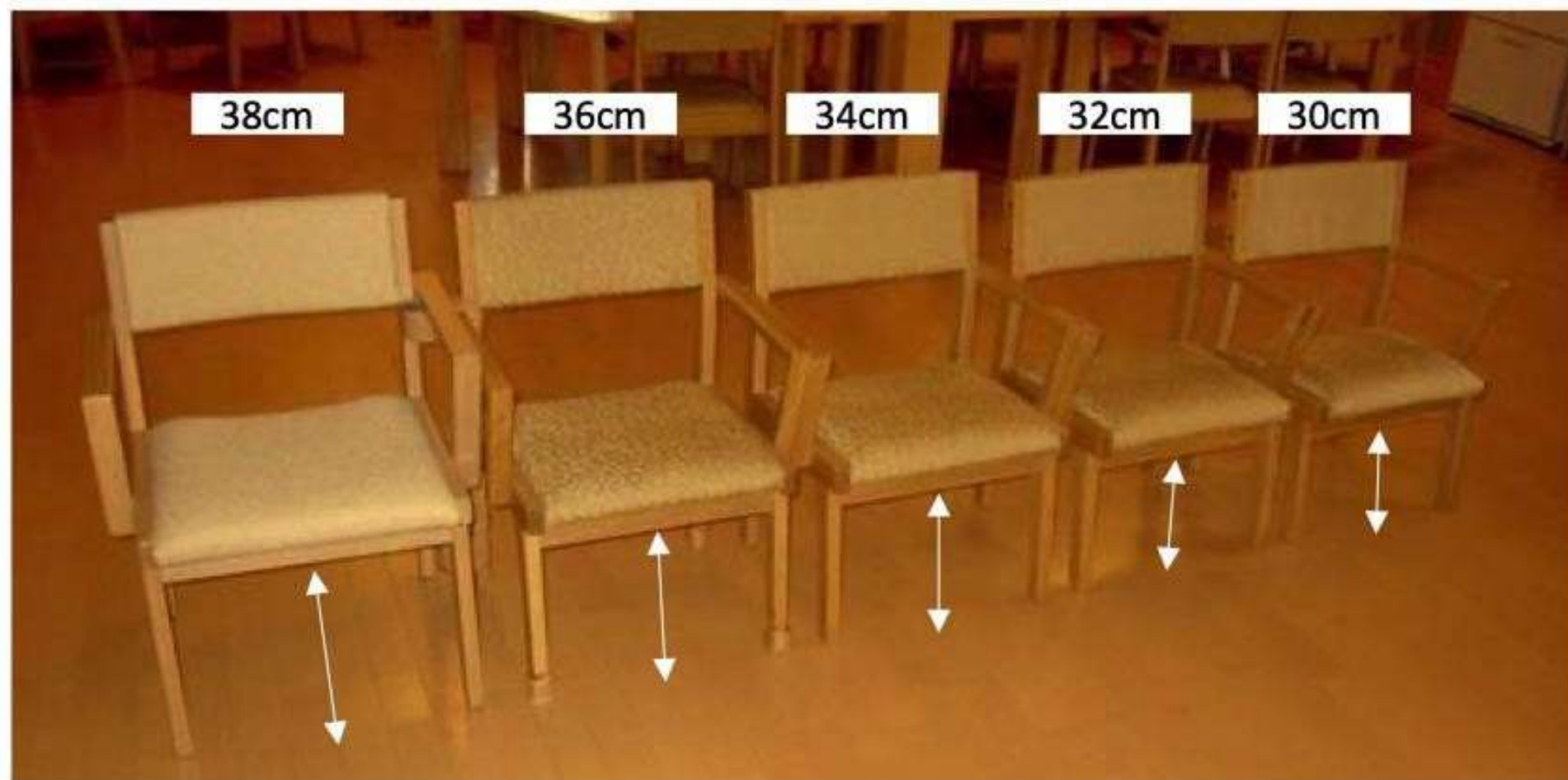




シーティングを普及させるために（提案）

- ・シーティングを実施できる人材育成
 - シーティング研修会を各地域で開催・専門資格の創設
 - ・施設でのシーティング好事例を集積し発信を強化する
 - 学術研究大会の開催
 - ・シーティングに関する相談研修機関を設置する
 - 設置・運営費の補助
 - ・ISWPやISSなど国際的な組織と連携して正しいシーティングの普及を目指す
 - ・シーティングと身体拘束の違いを明確化してより安全な車椅子シーティングを提供する
 - ・上記の目標を達成するために「シーティング推進議員連盟（仮称）」の設立を目指す。
- 

図表 16 高齢者の体格に応じたオーダーメイドの椅子の導入



日本医師会常任理事 江澤和彦様よりご提供写真

小児の姿勢に関する問題のある事例



骨盤の位置、体幹の保持などが考慮されていない車椅子が処方されている例。そもそも車椅子のサイズ自体合っていない



軽量な小児のバギーとして20年以上前に大流行したバギーを使用している。布全体がハンモック状の為、体が丸く抑えられてしまい、呼吸や身体機能に重大な影響が出る恐れがある

成長期の子供たちに対する不適切で問題のある事例をなくすための取り組み → 世界標準のシーティングによるレベルアップが必要！！